

令和6年度第3回江府町図書館協議会議事録

日時：令和7年3月17日（月） 午前10時～12時

場所：江府町防災・情報センター（愛ベルこうふ）2階 研修室

<会議出席者>

【委員】9名（欠席者0名）

会長：前川仁三夫 副会長：森田哲也

委員：奥田尚子 小林隆志 篠村知子 竹田真知子 松田暢子 道下隆秀
山本育朗

【事務局】9名

教育課課長：谷田孝之

図書館：（館長）宇田川恵理

（職員）道下三千子 長岡圭子 加持谷智子 加藤絵梨香 篠田信子
梅林恵理 松本幸江

1. 開会

2. 報告

（1）江府町図書館協議会公開及び議事録について

（館長）協議会の公開については、令和7年度の第1回から公開することとしたい。協議会議事録については、令和6年度第1回から3回までを、令和7年度4月に江府町のHPで公開することとしたい。

（委員長）令和7年度より、傍聴を可能にしてもいいのではということについて、いろいろな方に関心を持っていただくことは良いのではないかなと思う。

（副委員長）多くの方の理解をいただくという点で、公開は良いと思う。

（館長）議事録については、委員ということで責任ある発言をしている。記録に残して積み上げていくのは必要だと思う。

（館長）公開する議事録に関して、参加者名は掲載するが、発言は個人名での掲載はしない形にしようと思っている。会長・副会長については役職名を掲載する。

（委員長）図書館のスタッフについてはどうか。

（館長）「事務局」としている。館長のみ「館長」とすることもできる。

（委員長）責任ある立場として、館長とするのが良いのではないかな。

（委員）出席だけでなく欠席についての記載も追加したほうがよい。

（委員長）会の成立人数はあるか。

（館長）成立人数の規定はない。出欠者の記載と、館長の記載を追加する。

（委員長）議事録を公開する前に、委員にも確認してもらったほうが良い。

（館長）3月末までに取りまとめ、公開前にメール、封書でお送りするので、目を通していただき、訂正箇所など教えていただきたい。

（委員長）委員が確認するために送るものは発言者の名前を残したものにしてほしい。

(委員) 鳥取県立図書館からの委員のみ役職が書いてあるのは何故か。

(委員長) 協議会委員の名簿が HP で公開はされているのか。

(館長) 了承が得られれば、会議録と共に委員さんの名簿を公開したい。

(委員) 図書館協議会は、図書館法 16 条に基づいて設置されているので、委員選出の根拠がわかるような記載が必要では。

(委員) 所属の団体名などは、個人名とともに公開するのか。例えば、委員の所属団体名のみを記載してはどうか。この団体から参加している人であるということがわかればよいのではないか。

(委員) 所属は関係なく、社会教育関係者とか学識経験者であるということがわかればよいのでは。

(委員長) 名簿の公開についてはどうか。

(委員) してもよい。

(委員) してもよいが、私は個人というより、読み聞かせボランティアの代表として来ている。

(館長) 図書館協議会委員の名簿には、条例に基づいて任命している旨を記載している。議事録とともにこの名簿を公開することで、閲覧者には伝わると考える。

(委員長) 団体の代表として来ているのだから、個人の名前を出さなくても良いのではということについてはどうか。

(委員) 名前を出す必要があるかないかという意味である。

(課長) 教育委員会の立場としては、ぜひ協議会に所属していただきたい方に個人としてお願いしている。どの団体に所属しているか、していないかは重視していない。

(委員長) それでは、協議会委員の名簿も公開するということでした承りたい。

(2) 行政資料の収集について

(館長) 前回の図書館協議会で、行政資料の収集について進めてほしいという意見が出ていた。江府町のホームページでは、町議会の会議録と町の予算が公開されている。決算は、公開されていない。役場総務課に確認したが、決算は公開することを想定しないという回答だった。決算については、図書館だけで収集・公開するのは難しいと考えている。今後総務課と話をしていくが、とりあえず公開されている議事録と予算について、公開データをプリントアウトする形で収集・保存していく。対象は令和 6 年度からと考えている。保存期間については、館内・教育委員会とも協議し、来年度以降の協議会で報告したい。

(委員長) 予算書と決算書は、冊子で作られているはずだが、公開されていない、出せないという理由が理解できない。

(館長) 町報には、毎年決算の概略は掲載されているが、決算書の詳細については、公開を想定していないということだった。

(課長) 検討してみたいと思うが、町全体として、決算の公開については即答は難しい。

(委員) 公開してあるものだと思っていた。非公開とする理由がよくわからないが、決算には個人名が出ることもあり、そのあたりを配慮してのことかと思う。

(委員長) 図書館協議会の場でこういうことを言っているのは、図書館は資料を収集して、住民に提供することが大事なのではないかと思うからだ。図書館だけではなく町の問題だと思うが、住民に公開されていないのは図書館の役割として充分ではないのではないかと思う。なぜ公開しないのかということは、我々がまた町と話していかないといけないと感じる。

(委員) 今の話は、図書館的な話と、公文書館的な話だ。図書館は、所蔵している資料は見せるという原則があるが、公文書館は、見せないこともできる。図書館がすべての行政文書を収集する必要があるというわけではない。保存期間については、役場に保存できているのなら良いが、できていないのであれば、郷土資料として永久保存の対象となる。これからの歴史の中で、この年にどういうことがあったかという動きを見るために重要な資料となる。

(委員) 公文書は基本的に、条例で保存年数を決めて、過ぎたものは廃棄処分としている。中には永久保存のものもあるが。

(委員長) 地方自治のあり方というところまで遡って考えなければいけないかもしれない。情報公開の時代なので、どのように公開していくのか、具体的な考え方など今後の課題としたい。

(3) 江府町立図書館貸出数の推移について

(館長) 前回の協議会で、コロナ禍の影響について資料を出してほしいということだったので、コロナ禍を挟んで7年分の貸出冊数を遡って並べてみた。数値上は大きな影響が見えなかった。子どもの貸出が2021年に大幅に増えているが、当時勤めていた職員に尋ねてみても、原因がよくわからなかった。

(委員長) 県立図書館はどうか。

(委員) 減っている。21年に子どもの利用が増えたのは巣ごもり需要だろう。書店の売り上げも伸びた頃だ。子どもと合わせて30代が増えているのは、保護者が一緒に借りていったのだろう。

(委員) 近年貸出が増えているのは、図書館の予算が増えたのも要因のひとつにあるかもしれない。読みたい本があれば図書館に通うようになる。

(委員長) 予算が増えたのはいつか。

(館長) 2022年度からで、22年度が200万、24年度が250万となっている。

(委員) 自分が江府町の図書館長だった頃、日野町は300万で、うちは70万・80万だった。なんとか三桁の100万にはなったが、しばらくは100万のままで、何年か前から150万、200万と増えた。

(委員) 日野町図書館の利用者にも、「この頃江府に良い本があるからそっちで借りる」という人が増えている。

(委員) この貸出冊数は、江府町の資料だけでなく、取り寄せも含まれているか。

(館長) すべて含まれている。

(委員長) 取り寄せの仕組みは助かる。貸出冊数の推移については、図書館の努力、それに住民の本に親しんでいく姿勢などもあるかと思う。

(4) 令和6年度レファレンスについて

(館長) 前回協議会で、令和6年度のレファレンスの内容についての質問があり資料化した。本を渡すだけとか、コピーを取るだけなど単純なやり取りで終わったものに関しては数値だけでまとめ、ある程度やりとりがあったレファレンスについては、その内容を記載している。

(委員長) 対応記録を見ると、いろいろな興味関心がある。

(館長) 具体的なタイトルによる問い合わせのほか、ジャンルでの依頼もある。具体的でない依頼の場合は個別に話をしながら候補を絞り、該当するものを探している。

(委員長) 記録が残っているのは良い。記録をカテゴリで分けられると良いのではないか。県立図書館ではどうなっているのか。

(委員) まずは郷土かどうか、個人か団体かで分け、住民の生活課題の解決にどれくらい貢献できている

か見るため、仕事、医療健康、法律相談の数字はまとめられるようにしている。年間1万件の相談があり、並べるだけではまとまらない。

(委員) ひとつひとつを記録に残していくというのは大事なことで。積み重ねていくと後で参考になるので、良い取り組みだと思う。

(委員長) 楽しい相談ばかりではないだろうが、鍛えられていると思えば、自分自身も変わるかもしれない。

(委員) これを聞いてもいい、と住民に知らせることが大事だ。「こんな対応をしました」と公開する機会があったらよいと思う。

(委員長) 図書館だよりなど、広報に事例を載せてもいいかもしれない。レファレンスについて、学校でも子供たちからの要望などあるか。

(事務局) ある。

(委員長) 記録を残しているか。

(事務局) 残していない。

(委員) 学校では授業での活用が多く、どのような本を使ったかという記録は残していて、次に使うときには提案してもらっている。

(事務局) 授業で使った資料については、記録を残している。

(委員長) 前回の協議会で、図書委員が頑張っているという話があったが、図書委員もレファレンスに対応しているのか。

(委員) 図書委員が頑張っているのは、まずみんなに図書館へ来てもらうというアイデア作り、イベントの企画である。

3. 協議

(1) 今後の江府町立図書館について

(館長) 今回の委員さんは最後の会となるので、図書館について奇譚のないご意見をいただきたい。

(委員) 今の実態に合わせたことをしているのは基本だが、それを超えたようなことをしていく、未来へ向けて、今を超えていくということを期待している。

(委員) 学校としては町立図書館からのサポートで助かっている。今年度、パスファインダー作成を提案し、6年生の修学旅行に関して「平和学習」のパスファインダーができた。今後につながる取り組みだったと思う。私自身も図書館が大好きなので、江府町の図書館が学校図書館も含めて進歩していると感じている。

(委員長) 前回朝読がなくなったのは良くなかったという話があったが、その後どうなったのか。

(委員) 来年度に向けて、週に何回かでも朝読を復活させたいという提案は出している。強制的にでも本を読む時間を与えるのが大事かと思う。読んでみれば意外に面白かったという感想が出ることもあるので。

(委員) 奥大山江府学園 ブナの森校舎児童の「愛ベルこうふ」での放課後の過ごし方について、ご迷惑をおかけしているが、見守っていただきありがたく思っている。以前にもお話ししたと思うが、子どもたちの学力向上を期待したときに、読める・読めないは大きい。本に触れているのが当たり前になっていれば、文章問題を読んでもずっと理解して取り組めるのではと思う。生まれた時から読み聞かせであったり、保護者への呼びかけであったり、学校での委員会活動であったり、朝読書であったり、

本に触れる時間が当たり前にあって、学校へ登校したら自然と本を読んでいるような子に育っていくよう、働きかけていただけると非常にありがたい。将来の江府町を担う子どもたちを育てる意味でも、しっかり取り組んでいただきたく、お願いしたい。

(委員) 先日、江府町図書館友の会の研修に参加し、とても参考になった。当町も図書館友の会を再結成しようと相談しているところだ。江府町立図書館が今どんどん良くなっており、町民のみなさんにも期待されているのではと思う。前回私は出席していなくて、学校の朝読がなくなったという話については聞いていないのだが、時間がなくなったということか。

(委員) 時程の都合で、今まで朝読書をしていた時間が掃除の時間になった。

(委員) それは図書館ではなく学校の問題だが、鳥取県では朝読に取り組む学校が多く、成果が出ているのでは。再開してもらえたらと思う。

(委員) まだやっているところも多いが、朝読をやっている学校は、だんだん減っている。自分は平成19年から県立・支援協力課で働いており、その頃から江府町の図書館も見ているが、本当に変わった。専任の図書館員が1人だったところから今8人になっている。資料費は、本来雑誌・新聞も含めるので296万。まだ他町に比べると少ないが、差は縮まっている。駅前の書店の話も出ていて、町の中で本をどうするかという話が出ているのもすごいことだ。2月22日に行われた図書館ボランティアの会ではいろいろな話も出て、ボランティアの面では全県をリードする役割を担っている。岩美町の図書館でもボランティア団体を作りたいという話が出ているので、江府町を紹介した。今回の協議会資料に入っているレファレンス記録も面白い。ここには図書館への期待が表れている。

(委員) 江府町民は、図書館というところを悪い方向に一目置いているところがあって、行かず嫌い・知らず嫌いのような感覚がある。行ってみれば良さがわかるのだが。学校の先生が強制的にでも朝読を読ませたいと言われたが、私も賛成。10人の内1人でも本に何かを感じてくれれば良いと思う。江府町の中で、今そういうことが少しずつ増えているように感じている。図書館でも、先日のサメの展示など、町民が目を向けるようなことを頑張っていて、これからも増えていったらいいなと期待している。

(委員) 2年間、学校のPTAとして参加した。学校や図書館の取り組みを聞くことができて良かったと思う。ニュースでまちの本屋がどんどんなくなっている話など聞けば残念だ。江府町の図書館が良くなっていくことを期待している。子どもたちは今ネットやゲームに夢中だが、いつか本が子どもの力や支えになるときがくると信じているので、これからも働きかけようこの会を通じて感じた。

(委員) 自分が子どもの頃「ちろる文庫」というものがあって、居場所として馴染みがあった。今でも図書館は親しみのある場所。子どもたちにとっても、本に触れないとしても、バス待ちなど居場所として親しみを持ってくれているのではないかと思う。このまま大きくなってほしいなと思う。他の会である人が言っていましたが、「江府町は小さな町なので、少しくらい突飛なことでもチャレンジしやすい」という言葉が印象に残っている。今の図書館も、飲食可能にするなど、柔軟に対応してもらっていてありがたいし、すばらしいと思う。できれば、新しい図書館もほしい。本が多いととてもワクワクするので。

(委員長) みなさんの話を聞いていて、チャレンジするとか、いきいきしているとか、未来を超えてとか、楽しい気分になってきた。今回は最後ということで、スタッフのみなさんから一言ずつどうぞ。

(事務局) 今年度から学校図書館へ行くことになった。学校図書館で専属で働くというのは、とても大切

だ

と実感した。学校の先生たち、委員会の子どもたち、図書館からのサポートもありがたく思っている。これからもよろしくお願いいたします。

(事務局) 学校図書館ではひとりなので、町立、読み聞かせボランティアのみなさんからのサポートは日々とても助かっている。これからもよろしくお願いいたします。

(事務局) みなさんがおっしゃるように、図書館が江府町民の居場所としてもっと浸透し、活動の場所となり、老若男女の居場所となり、合わせて選書やレファレンスなど図書館の実力も上げていかなければならないと思っている。

(事務局) 過去の話がたまに出ますが、資料費が三桁に満たない、図書館の職員がひとりだった頃を知っているので、今は本当に良くなったと思う。また新しいことを多数考えているので、ご協力をよろしくお願いいたします。

(事務局) 今年は反応の良かった展示もあった。また来年度もいろいろとやっていきたい。

(事務局) 3月末で退職することになった。まったく誰も知らない状態から、利用者の顔と名前がわかるようになり、自分のことも覚えてもらった。図書館のことはずっと好きなので、これからはユーザーとして関わりたい。

(事務局) 地域おこし協力隊として参加させていただいた。地域のみなさんと、図書館と一緒にいろいろな事業をしてきた。また来年度もよろしくお願いいたします。ぜひみなさんの居場所としての図書館になっていきたいと思っている。

(委員長) ちょっとずつ環境が変わっていくのは楽しい。みなさんの意見をまとめて、来年度の図書館の目標は「いきいき、チャレンジ、未来へ超えていくぞー！」ではどうか。この2年間、ありがとうございました。

(館長) 私はもともと学校司書で、一人で仕事をしてきたが、複数の人と仕事をする難しさと共に、面白さも感じている。動き始めるとニーズが出てきて、ニーズが出てくると図書館の動きも変わっていく。協議委員さんのご指摘やアドバイスは図書館の気づきとなり、新しいことへ繋がっていく。これからは気づかれたことをどんどん言っていただければ。図書館は「変わっていく」ことが大事だと思う。

(課長) 久しぶりに参加させていただき、やっぱりすごい会だと思った。図書館が住民にとって大事な場所になっている、そのために協議会のみなさんの尽力があったのだと感じられた。本当にありがたいことだ。図書館の利用が増えているのはニーズを的確にとらえているのだろうと思っていたが、その認識を超えて、ニーズを超えて未来の話をされたことに驚いた。レファレンスについての話も、新しい視点を教えていただいた。突飛なこともできる、小回りが利く江府町だから、いろいろなことができる。様々なご意見ありがたくお聞きした。

(閉会)